

伊谷純一郎著作目録(年代順)

1. 和文著書・論文等

1940. 「粟谷, 太閤ヶ平付近7~8月の猿類に就て」『京三中博物同好会々誌』3: 99-103.
1941. 「『シータテハ』と『下鴨神社のアヤマダラタマムシ』」『京三中博物同好会々誌』4: 59, 90.
1950. 「大分県高崎山に於けるニホンザルの自然社会」(共著) 今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎, 霊長類研究グループ.
1950. 「宮崎県日南海岸に於ける野猿の自然社会に就いて」(共著) 今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎, 霊長類研究グループ.
- 1951.10. 「ニホンザルのコミュニケーション」『自然』6(10): 45-49.
1952. 「屋久島のシカとサル」(共著) 川村俊蔵・伊谷純一郎, 霊長類研究グループ. [一部は「ヤクシマザルの自然社会」として1984.08『モンキー』に収録]
1952. 「日南海岸に於けるニホンザルの自然社会」(共著) 今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎・徳田喜三郎, 霊長類研究グループ.
1953. 「高崎山に於けるニホンザルの自然社会」(共著) 今西錦司・川村俊蔵・伊谷純一郎, 『阿蘇国立公園拡張地資料——別府から九重へ』pp. 56-63, 大分県.
1953. 「ニホンザルの発育と母子関係」(共著) 伊谷純一郎・間直之助, 『生理生態』5(3-4): 112-121.
- 1954.05. 「ニホンザルの遊牧生活——高崎山の群れについて」(共著) 伊谷純一郎・徳田喜三郎, 『日本生態学会誌』4(1): 22-28.
1954. 「高崎山における日本猿の生態」(共著) 川村俊蔵・伊谷純一郎, 霊長類研究グループ.
1954. 「ニホンザルについて」『文部省学術映画シリーズ・6—ニホンザルの自然社会(2巻)』三井芸術プロダクション.
- 1954.04. 「ニホンザルの群れ内における社会的成長過程に関する考案」伊谷純一郎・田中亮・岸田久吉, 動物学雑誌63(3-4): 94.
- 1954.12. 「著書1」『高崎山のサル(日本動物記・2)』今西錦司(編), 284p, 光文社.
1955. 「千葉県高崎山地区におけるニホンザルの現状」(共著) 川村俊蔵・伊谷純一郎・徳田喜三郎, 『千葉県文化財紀要 高岩山ニホンザル総合調査』1: 1-7.
- 1955.05. 「ニホンザルの音声と生活」『言語生活』44: 44-50.
1956. 「ニホンザルをめぐる動物たち」北海道林務部(編)『林』46: 9-16.
- 1956.01. 「野生ニホンザルの食生活: 高崎山の群れについて(その1)——野生の植物性食物」霊長類研究グループ.
- 1956.04. 「野生ニホンザルの群れにおける新しい食物の獲得と伝播」『動物学雑誌』65(3-4): 116-117.
- 1956.05. 「高崎山のサルについて」『国立公園』78: 18-20.
- 1956.07. 「動物社会のリーダー——特に野生ニホンザルについて」『児童心理』10(7): 649-653.
- 1956.11. 「人間以前の言語——続ニホンザルのコミュニケーション」『自然』11(7): 22-27.
1957. 「ニホンザルのパースナリティ」『遺伝』11(1): 29-33.
1957. 「犬山におけるニホンザルの群れ作りおよび放飼実験について」(共著) 伊谷純一郎・河合雅雄, 『実験動物』6(4): 101-105.
1957. 「高崎山のニホンザルの群れにあらわれた異常個体について」(共著) 伊谷純一郎・水原洋城, 『実験動物』6(4): 105-107.
- 1957.03. 「ニホンザル社会におけるソリタリーについて」『動物学雑誌』66(3-4): 178.
- 1957.03. 「シグマのような大盗坊猿」三井高孟(編)『猿の四季』pp. 117-156, 四季社. [著書13収録, 改題「泥棒猿」]
- 1957.09. 「野生ニホンザルの自然動物園施設について」『国立公園』94.
- 1957.11. 「全国野猿公苑めぐり(その1)——犬山野猿公園」(共著) 伊谷純一郎・河合雅雄, 『モンキー』1: 8.
- 1957.11. 「世界のサル(その1)——ニホンザル」『モンキー』1: 9.
- 1957.11. 「ニホンザルの食べもの」『モンキー』1: 16-17.
- 1957.11. 「JMCだより」『モンキー』1: 18.
- 1957.12. 「シマッタ, すみません(表紙写真の説明)」『モンキー』2: 2.
- 1957.12. 「世界のサル(その2)——ゴリラ」『モンキー』2: 7.
- 1957.12. 「カメラルボ・幸島」(共著) 伊谷純一郎・河合雅雄, 『モンキー』2: 8.
1958. 「高崎山のニホンザル自然群における新しい食物の獲得と伝播」『Primates』1(2): 84-98.
- 1958.01. 「カメラルボ・高崎山」(共著) 水原洋城・伊谷純一郎, 『モンキー』3: 8.
- 1958.01. 「サルのことば——クワン」『モンキー』3: 13.
- 1958.02. 「サルのことば——ガ, ガ, ガ, ガ」『モンキー』4: 5.

- 1958.02. 「野生ニホンザルの性生活」動物学雑誌67(1・2):7-8.
 1958.02. 「類人猿にいとむ—日本モンキーセンター—アフリカ探検計画」『モンキー』14:12-13.
 1958.04. 「アフリカ探検便り(1)」『モンキー』6:14.
 1958.05. 「アフリカ探検便り(2)」『モンキー』7:14.
 1958.06. 「アフリカ探検便り(3)」『モンキー』8:14.
 1958.07. 「著書2」『幸島のサル—その性行動(日本動物記・3)』(共著)伊谷純一郎・徳田喜三郎・今西錦司(編), 242p. 光文社.
 1958.08. 「アフリカの自然動物公園」『野猿』3:3-6.
 1958.09. 「バフツ族の人たち(表紙写真の説明)」『モンキー』10・11:2.
 1958.09. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(1)ケニヤ」『モンキー』10・11:4-7.
 1958.09. 「カメラルボ・赤道アフリカ横断」『モンキー』10・11:10-16.
 1958.09. 「海拔4,000メートル—マウンテンゴリラ探検」(座談)今西錦司・伊谷純一郎・河合雅雄・深井正敏, 『モンキー』10・11:17-18.
 1958.09. 「サルのことば—カッカカッカカッカ」『モンキー』10・11:18.
 1958.10. 「高崎山のワカモノザル(表紙写真の説明)」『モンキー』12:2.
 1958.10. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(2)タンガニイカ」『モンキー』12:3-5.
 1958.11. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(3)ウガンダ(その1)」『モンキー』13:3-5.
 1958.12. 「動物の野外観察」『モンキー』14:6.
 1959.01. 「世界のサル学者(1)シュルツ博士 Dr. Adolf Schultz」『モンキー』15:2.
 1959.01. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(4)ウガンダ(その2)」『モンキー』15:4-5.
 1959.01. 「カメラルボ・ヨーロッパの動物園」『モンキー』15:8-9.
 1959.01. 「アフリカ」『自然』153:58-65.
 1959.02. 「世界のサル学者(2)カーペンター博士 Dr. C. R. Carpenter」『モンキー』16:2.
 1959.02. 「カメラルボ・サルのスカル(頭骨)」(共著)吉場健二・伊谷純一郎, 『モンキー』16:8-10.
 1959.02. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(5)ウガンダ(その3)」『モンキー』16:12-14.
 1959.03. 「世界のサル学者(3)ウォッシュバーン博士 Dr. S. L. Washburn」『モンキー』17:2.
 1959.03. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(6)ウガンダ(その4)」『モンキー』17:3-4.
 1959.03. 「カメラルボ・28年前のサルの本(STORIA NATURALE)」『モンキー』17:7-9.
 1959.04. 「世界のサル学者(4)ニッセン博士 Dr. H. W. Nissen」『モンキー』18:2.
 1959.04. 「カメラルボ・ヤーキース霊長類研究所」『モンキー』18:8-10.
 1959.04. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(7)ウガンダ(その5)」『モンキー』18:12-14.
 1959.05. 「世界のサル学者(5)ハドゥ博士 Dr. A. J. Hadow」『モンキー』19:2.
 1959.05. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(8)ウガンダ(その6)」『モンキー』19:5-6.
 1959.06. 「世界のサル学者(6)クーリッジ博士 Dr. H. J. Coolidge」『モンキー』20:2.
 1959.06. 「カメラルボ・霊長類の手足の進化」『モンキー』20:8-9.
 1959.06. 「生態写真シリーズ(1)—イモあらい」『モンキー』20:10.
 1959.06. 「手足の進化」『モンキー』20:11-12.
 1959.07. 「世界のサル学者(7)ミス・ドニスソープ Miss. J. H. Donisthorpe」『モンキー』21:2.
 1959.07. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(9)コンゴ(その1)」『モンキー』21:5-6.
 1959.07. 「生態写真シリーズ(2)—ディスプレイ」『モンキー』21:10.
 1959.07. 「ニホンザルのオスとメスの声の違い(質問箱)」『モンキー』21:14.
 1959.08. 「世界のサル学者(8)ハロウ博士 Dr. H. F. Harlow」『モンキー』22:2.
 1959.08. 「カメラルボ・アメリカの動物園」『モンキー』22:8-9.
 1959.08. 「生態写真シリーズ(3)—こらしめ」『モンキー』22:10.
 1959.08. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(10)コンゴ(その2)」『モンキー』22:11-12.
 1959.09. 「世界のサル学者(9)シューテデン博士 Dr. H. Schouteden」『モンキー』23:2.
 1959.09. 「生態写真シリーズ(4)—子守り」『モンキー』23:10.
 1959.09. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(11)コンゴ(その3)」『モンキー』23:11-12.
 1959.10. 「世界のサル学者(10)サウスウィック博士 Dr. C. H. Southwick」『モンキー』24:2.
 1959.10. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(12)コンゴ(その4)」『モンキー』24:3-4.
 1959.10. 「生態写真シリーズ(5)—順位」『モンキー』24:10.
 1959.11. 「世界のサル学者(11)チャンス博士 Dr. M. R. A. Chance」『モンキー』25:2.
 1959.11. 「ゴリラ探検とその将来」(対談)河合雅雄・伊谷純一郎, 『モンキー』25:3-4.
 1959.11. 「生態写真シリーズ(6)—馬のり行動」『モンキー』25:10.
 1959.11. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(13)コンゴ(その5)」『モンキー』25:12-13.
 1959.11. 「ボスザル列伝(2)—幸島カミナリ」『野猿』5:10.
 1959.12. 「世界のサル学者(12)バン・デン・ベルグ博士 Dr. Van Den Berghe」『モンキー』26:2.
 1959.12. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(14)コンゴ(その6)」『モンキー』26:3-5.
 1959.12. 「屋久島の鹿笛」『モンキー』26:14.
 1960.01. 「世界のサル学者(13)オストリーチ博士 Dr. P. Osterrieth」『モンキー』27:2.
 1960.01. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(15)コンゴ(その7)」『モンキー』27:4-5.
 1960.01. 「生態写真シリーズ(8)—初恋い」『モンキー』27:10.
 1960.02. 「世界のサル学者(14)クリューバー博士 Dr. Heinrich Klüber」『モンキー』28:2.
 1960.02. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(16)コンゴ(その8)」『モンキー』28:3-5.
 1960.03. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(17)コンゴからカメルーンへ」『モンキー』29:3-5.
 1960.04. 「世界のサル学者(16)スピラック夫人 Mrs. Spirack」『モンキー』30:2.
 1960.04. 「生態写真シリーズ(11)—病児見まい」『モンキー』30:10.
 1960.04. 「JMCアフリカ探検—アフリカの動物たち(18)カメルーン」『モンキー』30:11-12.
 1960.06. 「類人猿の生活と社会」泉涌一(編)『人間の生活(現代文化人類学・第1巻)』pp. 27-71, 中山書店.
 1960.07. 「世界のサル学者(18)ハウエルズ博士 Dr. W. W. Howells」『モンキー』33:2.
 1960.08. 「JMC第3次ゴリラ調査と東南アジア霊長類調査」(座談)伊谷純一郎他, 『モンキー』34:3-4.
 1960.08. 「カメラルボ・JMC海外調査—第3次ゴリラ調査」『モンキー』34:9.
 1960.10. 「シロカムリマンガバエ(表紙写真の説明)」『モンキー』36:2.
 1960.10. 「JMC海外調査だより」『モンキー』36:11.
 1960.11. 「世界のサル学者(21)ヘディガー博士 Dr. H. Hediger」『モンキー』37:2.
 1960.11. 「生態写真シリーズ(18)—なれる」『モンキー』37:10.
 1960.12. 「世界のサル学者(22)ボルウィック博士 Dr. Bolwig」『モンキー』38:2.
 1961. 「サルの子を産む」『サルの生活から』林寿郎(編)『少年少女日本動物記・1』pp. 26-54, 牧書店.
 1961.01. 「サバナナの狩人たち—アフリカ紀行から」『中央公論』76(1).
 1961.01. 「カヨンの森(表紙写真の説明)」『モンキー』39:2.
 1961.01. 「世界のサル学者(23)リーキー博士 Dr. L. S. B. Leakey」『モンキー』39:2.
 1961.01. 「東アフリカの森とサバナナ(1)—けものたち」『モンキー』39:4-6.
 1961.01. 「カメラルボ・東アフリカのサバナナと森林—JMC第3次調査の写真より(その1)森林」『モンキー』39:8-9.
 1961.02. 「シャラー氏来る」『モンキー』40:2.
 1961.02. 「カメラルボ・東アフリカのサバナナと森林—JMC第3次調査の写真より(その2)サバナナ」『モンキー』40:8-9.
 1961.03. 「ジュピター(表紙写真の説明)」『モンキー』41:2.
 1961.03. 「ジュピターをしのぶ—今はなき高崎山のボスとその後の群れについて」(座談)伊谷純一郎・水原洋城・河合雅雄, 『モンキー』41:3-6.
 1961.03. 「カメラルボ・ジュピター追悼」(共著)伊谷純一郎・水原洋城, 『モンキー』41:8-9.
 1961.04. 「見張り(表紙写真の説明)」『モンキー』42:2.
 1961.05. 「ニホンザルの音声とその働き」『モンキー』43:3-6.
 1961.05. 「カメラルボ・ニホンザルの音声とその表情—高崎山のサルたちより」『モンキー』43:8-9.
 1961.08. 「著書3」『ゴリラとビッグミーの森』322p. 岩波書店.
 1961.08. 「マウンテンゴリラの死をめぐって」『モンキー』45:46:3.
 1961.12. 「アフリカだより—ケニヤ(ナイロビにて)」(共著)伊谷純一郎・今西錦司, 『モンキー』50:11.
 1962. 「森の小さな狩人たち」大宅壮一・桑原武夫・阿川弘之(共編)『世界の旅・3—アフリカ大陸』pp. 367-410, 中央公論社, [著書11収録].
 1962.07. 「大脳頭頂葉の実験生理学的研究」(共著)岩田金治郎・橋本義雄・中嶋典英・中島正光・都守淳夫・河合雅雄・伊谷純一郎, 『脳と神経』14(7):589-590.
 1962.08. 「ベンバ族の少女マリヤンとその姉(表紙写真の説明)」『モンキー』58:2.
 1962.08. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検—タンガニイカ湖畔の動物記(その1)—キベバオ」『モンキー』58:3-8.
 1962.08. 「カメラルボ・カヨンの森のビッグミーたち—京都大学アフリカ類人猿学術探検より」『モンキー』58:9-11.
 1962.10. 「アフリカの味」『ハイカー』84:24-25.
 1962.10. 「いまに残る原始民族の生活」『時』5(10):78-81.

1962.11. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その2)——ニャティ(1)」「モンキー」61: 6-8.

1963.01. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その3)——ニャティ(2)」「モンキー」63: 13-15.

1963.03. 「人猿一知(表紙写真の説明)」「モンキー」64・65: 2.

1963.03. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その4)——ンデゲ」「モンキー」64・65: 7-10.

1963.03. 「カメラルボ・東アフリカの動物たち——京都大学アフリカ類人猿学術探検写真集より」「モンキー」64・65: 12-13.

1963.03. 「ボスザル列伝(10)タイタン——高崎山」「野猿」13: 18.

1963.04. 「高崎山サル総合調査によせて」「モンキー」66: 3.

1963.05. 「生態写真シリーズ(34)——木ゆすり」「モンキー」67: 12.

1963.07. 「哺乳類」伊谷純一郎・小笠原昭夫・岡田弥一郎・大町文衛・河合雅雄(共著)『日本の野生動物』pp. 89-143. 河出書房新社.

1963.07. 「高崎山のボス・タイタン(表紙写真の説明)」「モンキー」69: 2.

1963.07. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その5)——サマキ」「モンキー」69: 3-7.

1963.07. 「タイタン時代——ジュビター死後2年の高崎山」「モンキー」69: 9-11.

1963.08. 「五百羅漢(表紙写真の説明)」「モンキー」70: 2.

1963.09. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その6)——ニョカ」「モンキー」71: 3-5.

1963.10. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その7)——カソリマ」「モンキー」72: 3-5.

1963.11. 「京都大学アフリカ類人猿学術探検——タンガニカ湖畔の動物記(その8)——ニャニ」「モンキー」73: 3-5.

1964. 「アフリカの自然保護」「野猿」20・21: 2-3.

1964.06. 「カサカティ盆地のチンパンジー」『京都大学アフリカ学術調査・中間報告(1963.1-1964.3)』pp. 12-15. 京都大学アフリカ学術調査隊.

1964.08. 「編著書1」「高崎山の野生ニホンザル——餌さづけ10年目の総合調査報告」(共編)伊谷純一郎・池田次郎・田中利男, 210p. 勁草書房.

1964.08. 「高崎山ニホンザル自然群の社会構成」(共著)伊谷純一郎・徳田喜三郎・古屋義男・加納一男・秦雄一・伊谷純一郎・池田次郎・田中利男(共編)『高崎山の野生ニホンザル——餌さづけ10年目の総合調査報告』pp. 3-41. 勁草書房.

1964.08. 「著書4」「アフリカ動物記」286p. 河出書房新社.

1965. 「蛇二題」「きようと」38: 23-24.

1965.01. 「世界の博物館(その1)コリンドン・ミュージアム」「モンキー」83・84: 7-9.

1965.03. 「高崎山のサル」(少年少女科学名著全集・12)板倉聖宣他(共編), 国土社. [抜粋]

1965.03. 「編著書2」「サル——社会学的研究(今西錦司博士還暦記念論文集)」(共編)川村俊蔵・伊谷純一郎, xi+455p. 中央公論社.

1965.03. 「野生ニホンザルの音声伝達」川村俊蔵・伊谷純一郎(共編)『サル——社会学的研究(今西錦司博士還暦記念論文集)』pp. 291-357. 中央公論社.

1966. 「1964・65年度調査報告——調査隊の編成と経過」『京都大学アフリカ学術調査・中間報告3』pp. 26-27. 京都大学アフリカ学術調査隊.

1966.08. 「チンパンジーの社会構造」『自然』21(8): 17-30.

1966.12. 「タンザニアのチンパンジー」(座談)伊谷純一郎他, 『モンキー』92: 6-16.

1967. 「サバンナの四季」「きようと」49: 42-44.

1967.02. 「チンパンジーの餌づけと社会構造——京都大学アフリカ学術調査1966年」『科学朝日』27(2): 79-85.

1967.04. 「霊長類の社会から人間の社会へ」『科学』37(4): 170-174. [著書12収録]

1967.09. 「サルのことば」『ことばの宇宙』9: 86-95.

1967.11. 「霊長類生態学・社会学の立場から」『日本医師会雑誌』58(11): 1262-1265.

1968.03. 「人類進化への前奏曲」今西錦司・池田次郎・河合雅雄・伊谷純一郎(共著)『人類の誕生(世界の歴史・1)』pp. 249-294. 河出書房.

1968.03. 「人類社会の黎明」今西錦司・池田次郎・河合雅雄・伊谷純一郎(共著)『人類の誕生(世界の歴史・1)』pp. 295-318. 河出書房.

1968.06. 「サバンナにチンパンジーを追って——アフリカ類人猿調査小史」『科学朝日』28(6): 104-108.

1968.08. 「サバンナの文字」『図書』228: 1. [著書11収録]

1968.11. 「ブドongoの森での謎の事件——京都大学アフリカ類人猿学術調査記録から」『モンキー』100: 6-11.

1969.12. 「サルの餌づけ」アサヒグラフ編集部(編)『サルからヒトへ』pp. 22-25. 朝日新聞社.

1969.04. 「サキザル」『ジャポニカ大日本百科事典・第8巻』pp. 53. 小学館.

1969.04. 「シシオザル」『ジャポニカ大日本百科事典・第8巻』pp. 480. 小学館.

1969.04. 「シシザル」『ジャポニカ大日本百科事典・第8巻』pp. 481-482. 小学館.

1969.07. 「熱帯の緑の館——大型類人猿たちが真の居住者だろうか……」『PHP』254: 57-60.

1970. 「無人の原野——西部タンザニアのミオンボ・フォレスト」『世界の楽園・6——アフリカ』pp. 46-52. 番町書房. [著書11収録, 改題「ミオンボ・フォレスト」]

1970.03. 「ツバイ」『ジャポニカ大日本百科事典・第12巻』pp. 442. 小学館.

1970.06. 「霊長類の近親交配回避機構」『遺伝』24(6): 10-13. [著書12収録]

1970.07. 「著書5」『チンパンジーを追って』238p. 筑摩書房.

1970.12. 「ヒトニザル」『ジャポニカ大日本百科事典・第15巻』pp. 209-210. 小学館.

1971.01. 「素描, タンガニカ湖畔の人々」『展望』145: 119-129.

1971.02. 「カジャバラグループのカソクタ(表紙写真の説明)」「モンキー」121: 5.

1971.02. 「カソゲのチンパンジー」『モンキー』121: 24-28.

1971.03. 「生物として人間は何をしてきたか——人間学への試み(1)」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺本英・山田慶児, 『展望』147: 39-60.

1971.05. 「人間の学としての人間学——人間学への試み(2)」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺田和夫・寺本英・山田慶児, 『展望』149: 104-131.

1971.05. 「コミュニケーションの進化」『理想』456: 85-97.

1971.06. 「訳者序文」アンソニー・バーネット(著), 伊谷純一郎・西田利貞・秋鹿祐輔(共訳)『動物とヒトの行動(1)』pp. i-iii. みすず書房.

1971.11. 「著書再版」『高崎山のサル(日本動物記・2)』今西錦司(編), 285p. 思索社. [リプリント]

1971.11. 「思索社版へのあとがき」『高崎山のサル(日本動物記・2)』pp. 275-280. 思索社. [著書11収録, 改題「ルグフ川遊覧」]

1971.11. 「“原野の人”へのアプローチ——京大アフリカ調査隊の報告」『科学朝日』31(11): 132-136. [著書11収録, 改題「原野の人々との出遇い」]

1972. 「動物の社会——とくに霊長類の社会について」『週刊アルファ——大世界百科』114: 2723-2726.

1972. 「サルの世界から」(対談)伊谷純一郎・藤岡喜愛, 『放送朝日』213: 6-34.

1972.02. 「サル学から人間の学へ——人間学への試み(6)」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺本英・広重徹・古谷雅樹・山田慶児, 『展望』158: 32-62.

1972.02. 「著書再版」『幸島のサル——その性行動(日本動物記・3)』(共著)伊谷純一郎・徳田喜三郎, 今西錦司(編), 233p. 思索社. [リプリント]

1972.10. 「著書6」『霊長類の社会構造(生態学講座・20)』161p.(+索引13p), 共立出版. [著書12収録]

1973. 「サルの世界から」(対談)伊谷純一郎・藤岡喜愛, 藤岡喜愛(編)『人間を考える——対談』pp. 63-114. 社会思想社. [1972「サルの世界から」『放送朝日』の再録]

1973.06. 「人間学への試み」(座談)伊谷純一郎・上山春平・岡田節人・寺田和夫・寺本英・広重徹・古谷雅樹・山田慶児(編), 239p. 筑摩書房. [1971-72に「展望」誌上に掲載された座談会「生物として人間は何をしてきたか」『人間の学としての人間学』『サルの学から人間の学へ』などの再録]

1973.06. 「著書再版」『高崎山のサル』340p. 講談社文庫, 講談社. [リプリント]

1973.11. 「生物社会学・人類学からみた家族の起源」青山道夫・竹田且・有地亨・江守五夫・松原治郎(共編)『講座家族・1』pp. 1-17. 弘文堂.

1973.12. 「著書7」『タンガニカ湖畔——自然と人』(共著)伊谷純一郎・西田利貞・掛谷誠, 191p. 筑摩書房.

1974. 「高崎山のサル」(日本教養全集・12)379p. 角川書店. [抜粋]

1974. 「日本猿」『週刊アルファ——大世界百科』185: 4418-4419.

1974.09. 「アフリカの森林・オープンランド境界域における野生チンパンジーと未開狩猟採集民の比較生態学的研究」『学術月報』27(6): 379-383.

1974.10. 「霊長類の伝達機構」『年報社会心理学』15: 31-54.

1974.12. 「イソリの森の物語」『生物科学』26(4): 184-193. [著書11収録]

1974.12. 「霊長類における社会構造の進化」『言語』3(12): 14-24.

1974.12. 「人類の故郷」『世界の国・文化誌・8 アフリカ』pp. 42-55. 講談社. [著書11収録]

1974.12. 「アフリカの類人猿——生態・社会の比較と課題」『アフリカ研究』14: 1-13.

1975. 「ことばの発生(2)——動物の社会行動を通して」村井潤一・伊谷純一郎・中島誠・川野通夫ほか(共著)「発達と教育——その基本問題を考える」pp. 28-32, 大阪教育大学「発達と教育」その基本問題を考える会。

1975.02. 「解題」『今西錦司全集・第6巻』pp. 495-505. 講談社。

1975.03. 「解題」『今西錦司全集・第7巻』pp. 459-486. 講談社。

1975.06. 「コメント」『季刊人類学』6(2): 37-40.

1975.11. 「人間以前の社会から何を学ぶか——サルの研究に携わって」『経済と文化』7(11): 90-100. [インタビュー]

1975.11. 「霊長類の生態と社会構造」池部陽・小原二郎(共編)『人間・建築・環境大書・4』pp. 359-398. 彰国社。

1976.01. 「違かなるイブンバ——チンパンジー調査行」『アニマ』34: 53-59. [著書8収録]

1976.02. 「ルグフ縦断——チンパンジー生息の極限地帯に行く」『アニマ』35: 53-59. [著書8収録]

1976.03. 「日本人によるアフリカ研究」(座談)伊谷純一郎・川田順造・長島信弘・米山俊直・和崎洋一・和田正平・藤岡喜愛, 『季刊人類学』7(1): 3-51.

1976.03. 「トングウェをめぐる動物たち」『アニマ』36: 53-59. [著書8収録]

1976.03. 「動物学と言語学」『言語生活』294: 86-93.

1976.03. 「チンパンジーとゴリラ」ホミニゼーション研究会(編)『別冊サイエンス——特集 動物社会学・サルからヒトへ』pp. 92-105. 日本経済新聞社。

1976.03. 「サルからヒトへ」(座談)藤岡喜愛・伊谷純一郎・河合雅雄・鈴木見, ホミニゼーション研究会(編)『別冊サイエンス——特集動物社会学・サルからヒトへ』pp. 118-136. 日本経済新聞社。

1976.04. 「昆虫トングウェ」『アニマ』37: 53-59. [著書8収録]

1976.05. 「選ばれた動物たち」『アニマ』38: 53-59. [著書8収録]

1976.06. 「チンパンジーの社会構造」『アニマ』39: 53-59. [著書8収録]

1976.07. 「メール・アンド・フィーメール」『アニマ』40: 57-63. [著書8収録]

1976.08. 「イトウの森」『アニマ』41: 41-47. [著書8収録]

1976.08. 「『霊長類社会の諸問題』について」(1976年8月25日脱稿, 未出版)

1976.09. 「霊長類の社会構造と個体群のエイジング」『医学のあゆみ』97(9): 561-566. [著書12収録]

1976.09. 「森の中の小さな狩人たち」『アニマ』42: 58-63. [著書8収録]

1976.10. 「バンドと家族」『アニマ』43: 71-77. [著書8収録]

1976.11. 「損失の社会学」『アニマ』44: 52-57. [著書8収録]

1976.12. 「混濁の社会学」『アニマ』45: 73-79. [著書8収録]

1976.12. 「霊長類」杉春夫ほか(編集・監修), 杉靖三郎・今泉吉典・西脇昌治(共編)『現代生物学大系・4』pp. 233-248. 中山書店。

1977. 「自然を見る目」『ダーバニアン』4: 30-31.

1977.01. 「民族の顔(1)森で狩りする機敏なチビ族——ムプティ・ビグミー」『科学朝日』37(1): 16-17.

1977.03. 【編著書3】『チンパンジー記』744p. 講談社。

1977.03. 「ウガラ紀行」伊谷純一郎(編)『チンパンジー記』pp. 393-438. 講談社。[著書11収録]

1977.03. 「行列」伊谷純一郎(編)『チンパンジー記』pp. 439-472. 講談社。

1977.03. 「あとがき」伊谷純一郎(編)『チンパンジー記』pp. 695-703. 講談社。

1977.03. 「トングウェと動物たち——タンザニアの奥地から」『出版ダイジェスト』857: 4.

1977.04. 【編著書4】『霊長類(人類学講座・2)』伊谷純一郎(責任編集), 人類学講座編集委員会(編), 316p. 雄山閣出版。

1977.04. 「霊長類の伝達機構」伊谷純一郎(編)『霊長類(人類学講座・2)』pp. 195-224. 雄山閣出版。

1977.04. 「イトウの森のビグミーたち」川田順造(編)『民族探検の旅・6——アフリカ』pp. 142-147. 学習研究社。[著書11収録]

1977.07. 【著書8】『チンパンジーの原野——野生の論理を求めて』267p. 平凡社。

1977.07. 「日本におけるインフラヒューマン・カルチュアの研究」(共著)伊谷純一郎・西郷顕達, 加藤泰安・中尾佐助・梅棹忠夫(共編)『形質・進化・霊長類(今西錦司博士古稀記念論文集・2)』pp. 387-413. 中央公論社。

1977.11. 【編著書5】『人類の自然誌』(共編)伊谷純一郎・原子令三, iv+634p. 雄山閣出版。

1977.11. 「トングウェ動物誌」伊谷純一郎・原子令三(共編)『人類の自然誌』pp. 441-537. 雄山閣出版。

1977.11. 「編集後記」伊谷純一郎・原子令三(共編)『人類の自然誌』pp. 625-631. 雄山閣出版。

1977.12. 「チンパンジーの社会」『冬休み朝日科学教室——すばらしい動物たちの世界』pp. 34-41. 朝日新聞社。

1978.01. 「ビグミーチンパンジーの謎」『本』1: 12-14.

1978.03. 「サルの言語と人間の言語」大野晋・柴田武(編集委員)『岩波講座日本語・別巻』pp. 1-32. 岩波書店。

1978.03. 「日本のサル学」『国民百科事典・第10巻』pp. 420-424. 平凡社。

1978.03. 「ことばの発生(2)——動物の社会行動をとらえて」村井潤一(編)『ことばへのアプローチ』pp. 43-70, ミネルヴァ書房。[1975「ことばの発生(2)」の再録]

1978.09. 「ゴリラとビグミーの森」『紀行全集世界体験・12——アフリカ』pp. 5-21. 河出書房新社。[1961「ゴリラとビ

グミーの森」の抜粋[第4章]]

1978.09. 「訳者まえがき」アイブル・アイバフェルト(著), 伊谷純一郎・美濃口坦(共訳)『比較行動学(1)』pp. xiii-xvi. みすず書房。

1979. 「タンザニア・マハラ国立公園建設のための募金計画」『国立公園』354: 18.

1979. 「『家族』があって『学校』があれば……サルと人間紙一重」(対談)伊谷純一郎・楠田枝里子, 『三洋化成ニュース』275: 20-25.

1979.01. 「サルの社会に見る“人間の秘密”」『子どもと教育』44.

1979.03. 「ゴリラは人間と話ができます」(対談)伊谷純一郎・田中昌人, 『子どもと教育』46: 6-19.

1979.04. 「生物として人間は何をしてきたか」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺本英・山田慶児, 山田慶児(編)『学問の地図——人間学への試み』pp. 1-31. 朝日新聞社。[1973「人間学への試み」の再録]

1979.04. 「人間の学としての人類学」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺田和夫・寺本英・山田慶児, 山田慶児(編)『学問の地図——人間学への試み』pp. 32-67. 朝日新聞社。[1973「人間学への試み」の再録]

1979.04. 「サル学から人間の学へ」(座談)伊谷純一郎・上山春平・寺本英・広重徹・古谷雅樹・山田慶児, 山田慶児(編)『学問の地図——人間学への試み』pp. 139-179. 朝日新聞社。[1973「人間学への試み」の再録]

1979.06. 「ビグミーチンパンジーの謎」小原秀雄(編)『生きものの世界』pp. 180-186. 講談社。[1978「ビグミーチンパンジーの謎」の再録]

1979.07. 「雑食と偏食——動物とヒトの食性をめぐって」日本生活学会(編)『生活学論集・3——食の生活と文化』pp. 9-34. ドメス出版。

1979.08. 「(人類学ノート)を終えて——動物とヒトの間」(座談)伊谷純一郎・大島襄二・谷泰, 『アニマ』77: 54-60.

1979.09. 「野鳥との対話」『自然と盆栽』114(9): 62-63. [著書13収録]

1979.10. 「訳者あとがき」アイブル・アイバフェルト(著), 伊谷純一郎・美濃口坦(共訳)『比較行動学(2)』pp. 715-717. みすず書房。

1980. 「ヒトはどこからきたのか——類人猿にさかのぼって」(座談)伊谷純一郎・鶴本・白旗・池田, 『八潮野外保育センター紀要』5: 2-23.

1980.01. 「サルは何を語しているか——音声によるコミュニケーション」『アニマ』82: 6-17.

1980.01. 「今西錦司——人と学問」(座談)伊谷純一郎・上山春平・吉良竜夫, 『アニマ』82: 50-56.

1980.03. 「霊長類における個体の老化と集団の老化」『日本老年医学学会雑誌』17(2): 137-141.

1980.05. 「タンザニア共和国マハラ自然保護国立公園マスタープラン」(共著)伊谷純一郎・西田利貞, 149p. 国際協力事業団。

1980.05. 「霊長類——ヒトの仲間」『原色図解大事典・第2巻』p. 178. 小学館。

1980.05. 「霊長類の行動」『原色図解大事典・第2巻』p. 180. 小学館。

1980.05. 「ニホンザルの社会」『原色図解大事典・第2巻』p. 182. 小学館。

1980.07. 「赤道アフリカの自然主義者たち」『季刊民族学』13: 6-19. [著書11収録]

1980.08. 「ニホンザルのコミュニケーション」川本茂雄・日下部文夫・柴田武・服部四郎(共編)『日本の言語学・1——言語の本質と機能』pp. 5-16. 大修館書店。[1951「ニホンザルのコミュニケーション」『自然』の再録]

1980.08. 「コミュニケーションの進化」川本茂雄・日下部文夫・柴田武・服部四郎(共編)『日本の言語学・1——言語の本質と機能』pp. 17-32. 大修館書店。[1971「コミュニケーションの進化」『理想』の再録]

1980.11. 【著書9】『トウルカナの自然誌——阿貢なき人びと』284p. 雄山閣出版。

1980.11. 「霊長類の食」石毛直道(編)『食の文化シンポジウム'80——人間・たべもの・文化』pp. 67-88. 平凡社。

1980.11. 「プレゼンテーション資料」『霊長類の食性』『食の文化シンポジウム'80——資料』pp. 1-3. 味の素。

1981. 「早魃の生態——遊牧民トウルカナの事例から」『史境』2: 84-94.

1981.06. 「アフリカの市場」『調査情報』267: 30-31. [著書13収録]

1981.01. 「早魃の生態学」『キャリアマガジン』13(1): 11.

1981.02. 「群れへの接近——高崎山のサル」『自然読本——けもの』pp. 28-43. 河出書房新社。[1954「高崎山のサル」の抜粋[第1章]]

1981.02. 「アフリカ類人猿の自然社会」『学術月報』33(11): 837-843.

1981.02. 「タンザニア国立公園の父——ディレック・ブライソン氏の死を悼む」『アニマ』95: 66-77. [著書15収録]

1981.03. 「八重山群島の伝統的産業に関する生態人類学的研究」伊谷純一郎(編), 61p. 昭和55年度文部省科学研究費補助金(一般研究C)研究成果報告書。

1981.04. 「自然の悲愴」『月刊NIRA』3(4): 10-14. [著書13収録]

1981.07. 「日記から」『朝日新聞』(1981年7月13~25日), [著書13収録, 改題「洛北随想」]

1981.07. 「洛北大鷲町周辺の動物」岩倉大鷲町・町史編集委員会(編)『岩倉大鷲町』pp. 143-171. [一部著書13収録, 改題「ジュナイとマスマス」]

- 1981.08. 「集団の加齢と行動——霊長類社会の分析から」木田邦夫・阿部裕・古川俊之(共編)『高齢化社会の構造——老老制御の展望(2)』pp. 101-125, サイエンス社.
- 1981.09. 「トゥルカナに寄せて」伊藤芳明著『太陽のせいなの?——東アフリカ航路国境からの報告』pp. 8-9, プレイガイドジャーナル社。〔著書13収録〕
- 1981.10. 「心の生い立ち——社会と行動」藤永保・伊谷純一郎・藤岡喜愛・梅本亮夫・妻島文夫(共著)『講座現代の心理学(1)——心とは何か』pp. 91-155, 小学館。〔後半部は著書12収録, 改題『社会構造をつくる行動』〕
- 1981.11. 「ビグミーの食事」『週刊朝日百科——世界の食べもの』308: 181-187.〔著書11収録〕
- 1981.11. 「極限のエコロジー——アフリカ半砂漠の遊牧民」『創造の世界』40: 8-37.
- 1981.11. 「自然と人間——環境への適応」(シンポジウム)伊谷純一郎・梅原猛・太田至・掛谷誠・河合雅雄・作田啓一・長島信弘, 『創造の世界』40: 38-63.
- 1982.04. 「サルとヒトの間」『健康と体力——たくましい青少年の育成と国民スポーツの振興: 昭和56年度実践研究事例集』14(4): 5-17.〔講演要旨〕
- 1982.05. 「霊長類の巣」『新建築学大系(月報9)』彰国社。〔著書13収録〕
- 1982.07. 「動物と人の心——行動と社会から」今泉吉典・伊谷純一郎・谷川健一・長谷川英・日高敏隆・中川志郎(共著)『動物と人間のあいだ』pp. 61-103, 講談社.
- 1982.08. 「チンパンジーの原野」福田三郎・成岡正久・伊谷純一郎(共著)『全集 日本動物誌・4』pp. 221-304, 講談社.
- 1982.08. 「鳥」『全集 日本動物誌(月報4)』講談社。〔著書13収録〕
- 1982.10. 「待望のオーケストラエーションの実現」『アフリカ幻唱アンコール』芸能山城組・秋の公演パンフレット.
- 1982.11. 「著書10」『大旱魃——トゥルカナ日記』235p, 新潮社.
- 1982.11. 「トゥルカナの絵」『波』16(11): 16-17.〔著書13収録〕
1983. 「非行の種社会」『科学サロン』25: 3-4.
- 1983.03. 「チンパンジー」(座談)伊谷純一郎・J. グドール・西田利貞, 『アニマ』121: 48-54.
- 1983.04. 「家族起源論の行方」家族史研究編集委員会(編)『家族史研究・7』pp. 5-25, 大月書店。〔著書12収録〕
- 1983.04. 「牛皮の黒板」文部省大臣官房情報処理課(編)『教育と情報』301: 22-23.
- 1983.06. 「日本学術振興会の50年——回顧と期待」(座談)伊谷純一郎・今井勇之進・岡野重他6名, 『学術月報』36(3): 172-192.
- 1983.08. 「編著書6」『アフリカハンドブック』(共編)米山俊直・伊谷純一郎, vi+672p, 講談社.
- 1983.08. 「動物と植物」米山俊直・伊谷純一郎(共編)『アフリカハンドブック』pp. 499-526, 講談社.
- 1983.08. 「自然保護と国立公園」米山俊直・伊谷純一郎(共編)『アフリカハンドブック』pp. 527-541, 講談社.
- 1983.09. 「イトウの森——ムプティ・ビグミーと狩猟」『育英新聞』1983年9月10日.
- 1983.10. 「アフリカの歌」『歌壇幻唱』p. 6, 芸能山城組・昭和58年度文化庁芸術祭参加パンフレット.
- 1983.11. 「分業, 分配から家族の成立へ」(座談)伊谷純一郎・江原昭善・大参養一・西田利貞, 『科学朝日』43(11): 44-50.
- 1983.12. 「母子関係と霊長類社会の進化」『周産期医学』13(12): 64-68.
1984. 「人間は本当に文字を使う生物か」(対談)伊谷純一郎・山城祥二, 『地球』32: 42-46.
- 1984.01. 「チンパンジーの単位集団」(シンポジウム)第一セッション——社会人類学・行動学の立場から, (コーディネーター)中根千枝, (報告・発言)J. グドール・伊谷純一郎・谷泰・岩田慶治・王松興, 河合雅雄・小林登・中根千枝(共編)『親と子の絆——学際的アプローチ』pp. 54-60, 創元社.
- 1984.03. 「編著書7」『アフリカ文化の研究』(共編)伊谷純一郎・米山俊直, ix+786p, アカデミア出版会.
- 1984.03. 「トングエの自然村」伊谷純一郎・米山俊直(共編)『アフリカ文化の研究』pp. 699-728, アカデミア出版会.
- 1984.03. 「編集後記」伊谷純一郎・米山俊直(共編)『アフリカ文化の研究』pp. 777-781, アカデミア出版会.
- 1984.03. 「湖畔の休日」『野鳥』450: 30.〔著書13収録〕
- 1984.03. 「ニホンザルとチンパンジーの母子関係の比較」(共著)伊谷純一郎・長谷川真理子, 『昭和58年度厚生省心身障害者研究「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究報告書』pp. 20, 厚生省「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究班.
- 1984.06. 「山菜採り」『小学校学級担任』6月号.〔著書13収録〕
- 1984.06. 「『自然学の提唱』について」(座談)今西錦司・伊谷純一郎・太田至・藤岡喜愛・山田秀雄・米山俊直, 『季刊人類学』15(2): 3-58.
- 1984.07. 「停止した時間と絶えざる流転の交錯」『アニマ』137: 12-13.〔著書11収録/著書13収録, 改題『悠久と転変』〕
- 1984.08. 「ヤクシマザルの自然社会」(共著)川村俊蔵・伊谷純一郎, 『モンキー』197・198・199: 103-111.
- 1984.09. 「曲り角に立つアフリカ——問題解決の糸口を探る」(座談)伊谷純一郎・岩城剛・坂本慶一・諏訪兼位, 『国際協力——特集・模索するアフリカ』9: 6-13.
- 1984.09. 「サルからヒトへの進化を追って」(対談)伊谷純一郎・梅村忠夫, 『みんぱく』8(9): 2-7.
- 1984.10. 「著書11」『アフリカ紀行——ミオンボ林の彼方』276p, 講談社.
- 1984.11. 「霊長類学・生態人類学・人類進化論——伊谷純一郎氏のハクスリー記念賞受賞を祝って」(座談)伊谷純一郎・市川光雄・掛谷誠・河合雅雄・西田利貞・米山俊直, 『季刊人類学』15(4): 3-56.
1985. 「わずかに10歳で生活を支える——遊牧民トゥルカナ族の子どもたち」『日本生命財団ニュース』21: 5.
1985. 「平等性の起源」『玉城教授記念講演集』24: 11-24.
- 1985.01. 「洛北随想」『神戸新聞』1985年1月14日, 2月13日.〔著書13収録, 改題『洛北随想』〕
- 1985.01. 「霊長類の食性異聞」『神戸新聞』1985年1月29日.〔著書13収録〕
- 1985.02. 「旅立ち」『神戸新聞』1985年2月26日.〔著書13収録〕
- 1985.03. 「ニホンザルとチンパンジーの母子関係の比較」『昭和59年度厚生省心身障害者研究「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究報告書』pp. 24-25, 厚生省「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究班.
- 1985.03. 「ある風物詩」『神戸新聞』1985年3月28日.〔著書13収録〕
- 1985.04. 「遊牧民トゥルカナの子供たち」河合雅雄(編)『子どもと生きる』pp. 192-213, 創元社.〔著書13収録〕
- 1985.04. 「アフリカからの発想」(座談)伊谷純一郎・河合雅雄・田中二郎・米山俊直, 河合雅雄(編)『アフリカからの発想——文化と進化の接点』pp. 177-214, 小学館.
- 1985.04. 「黒い大地の鼓動27」『読売新聞(夕刊)』1985年4月13日.
- 1985.05. 「サバンナと芭蕉」『世界』474: 57-60.〔著書13収録, 改題『サヴァンナと連歌』〕
- 1985.06. 「霊長類社会の進化の道すじ」『学燈』82(6): 4-7.
- 1985.09. 「乞食考」『現代』9月号: 436-437.〔著書13収録〕
- 1985.09. 「進化論の中に人間性のまことをさぐる」(対談)三河春樹・伊谷純一郎, 『いずみ』32(9): 4-11.
- 1985.09. 「遊牧民トゥルカナの生活と社会」『聖教新聞』1985年9月10日.〔講演録〕
- 1985.10. 「死の予言者にも精霊にもなるアフリカのカラス」『野鳥』470: 14-15.〔著書13収録, 改題『アフリカのカラス』〕
- 1985.10. 「社会の進化」寺本英・岡田節人・伊谷純一郎(共著)『生命科学シティー・セミナー・1』pp. 69-107, 培風館.
- 1985.11. 「霊長類の社会システムの進化——共存のための不平等原則と平等原則」『社会・経済システム』3: 1-15.〔著書12収録, 改題『霊長類社会における共存のための不平等原則と平等原則』〕
- 1985.12. 「牧羊民と旱魃——トゥルカナの事例」『メディアカル・ヒューマニティ』1: 93-99.
- 1985.12. 「サル学事始めの頃と今日の課題」『霊長類研究』1: 5-14.〔講演録〕
- 1986.03. 「家族の発生と進化(1)・(2)」加藤秀俊(編)『家庭の本質』pp. 9-35, 放送大学教育振興会.
- 1986.01. 「アフリカから自然を守る闘い——マハラ山塊国立公園誕生への道のり」『アニマ』155: 65-69.〔著書13収録〕
- 1986.03. 「編著書8」『自然社会の人類学——アフリカに生きる』(共編)伊谷純一郎・田中二郎, 393p, アカデミア出版会.
- 1986.03. 「緒言」伊谷純一郎・田中二郎(共編)『自然社会の人類学——アフリカに生きる』pp. 1-3, アカデミア出版会.
- 1986.03. 「人間平等起源論」伊谷純一郎・田中二郎(共編)『自然社会の人類学——アフリカに生きる』pp. 349-389, アカデミア出版会.
- 1986.03. 「母子関係の変異性に及ぼす諸要因」(共著)伊谷純一郎・長谷川真理子, 『昭和60年度厚生省心身障害者研究「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究報告書』pp. 28-31, 厚生省「母子相互作用の臨床応用に関する研究」研究班.
- 1986.04. 「動物大百科3——霊長類」
- 1986.05. 「霊長類社会構造の進化」『創造の世界』58: 160-185.〔著書12収録〕
- 1986.05. 「順位をめぐる」『指導と評価』32: 2-3.〔著書13収録〕
- 1986.05. 「動物と庭」『週刊朝日百科——日本の歴史(19)』547: 233.
- 1986.10. 「アフリカとの30年」『渋沢青洲記念財団電門社「青淵」』451: 24-27.〔著書13収録〕
- 1986.11. 「老い——生物と人間」伊東光晴・河合雅雄・副田義也・鶴見俊輔・日野原重明(編集委員)『老いの人類史——老いの発見(1)』pp. 117-128, 岩波書店.〔著書15収録〕
- 1986.11. 「霊長類にみる血縁・地縁・生き甲斐——家族以前」『年金と住宅』64: 18-21.〔著書13収録, 改題『家族以前』〕
- 1986.11. 「生命を写すリアリズム」(対談)伊谷純一郎・飯沢匡, 『アニマ別冊・動物画の世界——野生の生命を描く』168: 42-46.
- 1986.12. 「京住記」『京住記——それぞれの京都60人の語り』p. 27, 朝日新聞社.
1987. 「健康について——アフリカでの経験から」『健康に関する教育研究体制のあり方』調査研究報告書』pp. 21-23, 京都大学昭和61年度教育研究特別経費.
1987. 「野生動物保護について——猿害の構造」『福井県獣医師会だより』1: 6.
- 1987.04. 「霊長類の社会構造」桑原武夫(編)『創造的市民講座——わたしたちの学問』pp. 117-151, 小学館.〔講演録〕
- 1987.05. 「若い日の私」『毎日新聞』1987年5月8日.〔著書13収録〕
- 1987.06. 「著書12」『霊長類社会の進化』354p, 平凡社.
- 1987.06. 「サルからヒトへの進化を追って」(対談)伊谷純一郎・梅村忠夫, 梅村忠夫(編)『対論・人間探究——人間科学の新展開』pp. 80-100, 講談社.
- 1987.07. 「アルバイト今昔」『京古本屋往来』37: 1.〔著書13収録〕

1987.07. 「越境と地域研究」『同朋』111: 1.
 1987.09. 「心の旅」『週刊ポスト』24(9): 19.〔著書13収録〕
 1987.10. 「狩猟採集民は貧しいといえるか」『季刊民族学』11(4): 10-12.
 1987.10. 「集団の老化(1) 霊長類」『臨床科学』23(10): 1351-1356.
 1987.11. 「アフリカ派遣研究員のこと」『日本学術振興会20年の歩み』pp. 10-13. 日本学術振興会.
 1987.11. 「性と社会行動」(シンポジウム)伊谷純一郎・榎原猛・加納隆至・河合雅雄・作田啓一・長谷川寿一, 『創造の世界』64: 70-95.
 1988. 「霊長類社会の七不思議」『大阪精神神経科診療所医会誌』12: 38-45.〔講演録〕
 1988.01. 「馬とのつき合い」『優駿』48(1): 49.〔著書13収録〕
 1988.02. 「子どもたちと鳥の世界——遊牧民トゥルカナの調査から」東洋・稲垣忠彦・岡本夏木・佐伯胖・波多野諒余夫・堀尾輝久・山住正己(編集委員)『岩波講座教育の方法・別巻』pp. 353-374. 岩波書店.
 1988.03. 「アフリカ」『餌づけ』『家族』『個体識別法』『社会』『種社会』『人類』『動物社会学』『バイオテレメター』『群れ』『類人猿』『霊長類』(部分執筆あり)『世界大百科事典』平凡社.
 1988.03. 「コメント—(シンポジウム)コミュニケーションの進化」『季刊人類学』19(1): 95-111.
 1988.04. 「アフリカの再考」『JC news』4: 3.〔著書13収録〕
 1988.04. 「若手研究者の手紙——ザイール盆地の熱帯多雨林」『学術月報』41(4): 319.
 1988.05. 「チンパンジーの言語」金田一春彦・林大・柴田武(共編)『日本語百科大辞典』pp. 1253-1256. 大修館書店.
 1988.05. 「順位をめぐる」『図書文化』(編)『だんわしつ——教育を語るエッセイ集』pp. 22-25. 日本図書文化協会.
 1988.06. 「コメント」(瀬戸口烈司)『ヨサルがはらむ霊長類社会進化論への問題点』『季刊人類学』19(2): 107-112.
 1988.06. 「宮地先生と霊長類研究グループ」『モンキー』224: 14-15.〔著書13収録〕
 1988.07. 「マハラ山塊国立公園への援助」『自然保護』314: 13.
 1988.08. 「子供と鳥——遊牧民トゥルカナについて」『京都小児科医会会報』32: 11-13.〔著書13収録, 改題「トゥルカナの子供と鳥」〕
 1988.10. 「月の虹」森本哲郎(編)『驚異への旅——新撰「世界七不思議」』pp. 177-182. 文藝春秋.〔著書13収録〕
 1988.10. 「田園喪失」『JC news』10: 3.〔著書13収録〕
 1989.02. 『監修書1』『アフリカを知る事典』(監修)伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直, 527p. 平凡社.
 1989.02. 「サイチョウ」伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直(監修)『アフリカを知る事典』pp. 165-166. 平凡社.
 1989.02. 「自然保護」伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直(監修)『アフリカを知る事典』pp. 192-193. 平凡社.
 1989.02. 「生物相」伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直(監修)『アフリカを知る事典』pp. 236-238. 平凡社.
 1989.02. 「船」伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直(監修)『アフリカを知る事典』pp. 358-359. 平凡社.
 1989.02. 「アフリカの人と自然」『KC通信』7: 9.
 1989.06. 「人間性の起源——霊長類と人間の間」宇沢弘文・河合雄雄・藤沢令夫・渡辺慧(共編)『岩波講座転換期における人間』pp. 171-194. 岩波書店.
 1989.07. 「いずれが実像でいずれが虚像なのか——動物写真へのひとつの問いかけ」『アニメ』202: 10-11.〔著書13収録, 改題「虚像と実像」〕
 1989.10. 「人間性の進化」のあとさき 川喜田二郎(監修)『今西錦司——その人と思想』pp. 137-156. ぺりかん社.〔1975「今西錦司全集」7「解題」の再録〕
 1990. 「「ひまな人びと」の研究」『京都会議』14: 10.
 1990.01. 「私の心にある風景——都井岬」『国立公園』480: 11.
 1990.01. 「立花隆のサル学レポート・34 サルに学ぶヒト」(対談)伊谷純一郎・立花隆, 『アニメ』208: 94-99.
 1990.01. 「人間とサルの世界」『流通ケイサイ』511: 3-4, 6-13, 16-24.〔インタビュー〕
 1990.02. 「地域研究と学術情報」『静修』京大付属図書館報26(1-2): 1-3.
 1990.02. 「立花隆のサル学レポート・35 サルに学ぶヒト」(対談)伊谷純一郎・立花隆, 『アニメ』209: 90-96.
 1990.02. 「ヒトはなぜ人間でありうるか」『京都会議』13: 1-5.
 1990.02. 「動物の社会・人間の世界」(座談)伊谷純一郎・稲盛和夫・河合雄雄・佐藤文隆・広中平祐・福井謙一・藤澤令夫・森口親司・矢野暢, 『京都会議』13: 5-9.
 1990.03. 『著書13』『自然の慈悲』286p. 平凡社.
 1990.03. 「立花隆のサル学レポート・36 サルに学ぶヒト」(対談)伊谷純一郎・立花隆, 『アニメ』210: 90-96.
 1990.07. 「タンガニカ湖畔」『梅棹忠夫著作集 第8巻(月報5)』, 中央公論社.〔著書15収録〕
 1990.07. 「画集・日本の野生動物」(田中豊義著)『アニメ』214: 116.〔書評〕
 1990.08. 「新室長所感」『兵庫県立自然系博物館(仮称)準備室ニュース』pp. 2-3.

1990.08. 「『蘭の興』より」『悠』8月号: 63.〔著書15収録〕
 1990.10. 「霊長類社会における男女」原田平作・溝口宏平(共編)『性のポリフォニー——その実像と歴史をたずねて』pp. 20-30. 世界思想社.〔著書15収録〕
 1990.11. 「『自然』について」『自然とともに』12: 1-2.
 1990.12. 「人類学とアフリカの旅」『アフリカ研究』37: 1-10.〔著書15収録〕
 1991. 「すいせんのことは」『アフリカの21世紀』(パンフレット) 勁草書房.
 1991. 「白昼夢の味」『せせらぎ通信』9.
 1991.01. 「サル社会における師弟」『教育ジャーナル』29(12): 4-5.
 1991.02. 「楽しいな随筆集」『安岡章太郎随筆 集全8巻』(購入申込書), 岩波書店.
 1991.02. 「カルチュア概念——アイデンティフィケーション論その後」西田利貞・伊沢絳生・加納隆至(共編)『サルの文化誌』pp. 269-277. 平凡社.
 1991.03. 「ザイール盆地の熱帯雨林」沢田敏男(編)『学術振興のすすめ(1)』pp. 76-77. 丸善.
 1991.04. 「ケニア砂漠の遊牧民」神戸学院大学人文学会『人間文化』1: 1-8.〔講演録〕
 1991.05. 「自然と人間との関係」『太陽』29(5): 6-7.〔著書15収録〕
 1991.06. 「ルグブ川」『国立科学博物館ニュース』266: 4-5.〔著書15収録〕
 1991.07. 「雄々しいタスカールの運命」『アニメ』226: 42.
 1991.09. 「サルの生薬」『日本生薬学会第38回年会・講演要旨集(1991年9月13日)』pp. 29-31.〔講演録〕
 1991.09. 『著書14』『サル・ヒト・アフリカ——私の履歴書』213p. 日本経済新聞社.
 1991.10. 「サル・トリ・ヒト——社会の構造と非構造」『イリュウム』3(2): 41-56.〔著書15収録〕
 1991.11. 「アフリカ遊牧民の子育て」『滋賀県小児保健協会会報』6: 19.〔講演録〕
 1991.11. 「人類滅亡の可能性とその回避のシナリオ」『CEL』18: 35-36.
 1992. 「アフリカの原野をうたう」『マザー・ネイチャーズ』6: 74.
 1992. 「ケニア遊牧民の潜在的農耕——トゥルカナの事例」『農耕の技術』15: 1-24.
 1992.01. 「サル・ヒト・社会」(対談)伊谷純一郎・安岡章太郎, 『神戸新聞』1992年1月1日, 3~8日.
 1992.01. 「動植物の英名と虚名」『教育展望』1・2月合併号: 32-35.〔著書15収録〕
 1992.01. 「『人間平等起原論』補遺」『學燈』89(1): 6-9.〔著書15収録〕
 1992.01. 「中」『読売新聞』1992年1月6~10日, 13~14日, 16~17日.〔著書15収録, 改題「猿九話」〕
 1992.01. 「ニホンザル今昔」『どうぶつと動物園』44(1): 3.
 1992.02. 「サルの生薬」『漢方ダイジェスト』22: 2-7.〔著書15収録〕
 1992.03. 「遊澤敏三先生と日本の霊長類学」『遊澤敏三著作集 第1巻(月報1)』平凡社.〔著書15収録〕
 1992.05. 「鳥に会う」『銀行倶楽部』374: 10-11.〔著書15収録〕
 1992.05. 「破滅回避のレメディーの模索は不可能」ジオカストロフィ研究会(編)『ジオカストロフィ・上巻』pp. 60-61. NHK出版.〔1991「人類破滅の可能性とその回避のシナリオ」の再録〕
 1992.07. 「道と時と」『Humanitas』6: 1.
 1992.07. 「山崎柄根著『鹿野忠雄』を読んで」『月刊百科』357: 40-41.〔著書15収録, 改題「鹿野忠雄のこと」〕
 1992.08. 「現代の音楽」『京都新聞』1992年8月11日, 9月26日, 11月13日, 1993年1月7日, 2月26日, 4月14日.〔著書15収録〕
 1992.09. 「下鴨界隈そして家族起源論」綾部雄雄・青柳まちこ(共編)『民族学コラージュ』pp. 263-269. リプロポート.〔著書15収録〕
 1992.09. 「今西先生とサル学事始め」『こうしま』3: 4-5.〔著書15収録〕
 1992.10. 「わが今西錦司を語る——人類学の視点でサルを捉える: 新しい霊長類学への道」『アニメ』241: 20-26.〔著書15収録〕
 1992.10. 「回想今西先生」『京都』(京都市自治94周年記念): 33-35.〔著書15収録〕
 1992.10. 「人間社会の形成——サル学の立場から」『国際ロータリー第2690地区・地区大会記念誌』pp. 107-119.〔講演録〕
 1992.12. 「吊辞」『霊長類研究』8(2): 236.
 1992.12. 「魚つかみ遍歴」財団法人淡水魚保護協会『淡水魚保護』92: 29-32.〔著書15収録〕
 1993.01. 「牧人トゥルカナと鳥の世界」『本: 読書人の雑誌』18(1): 4-5.
 1993.01. 「幸島サル調査のはじめ」『こうしま』4: 4-6.
 1993.03. 「自製の哲学」『総合的地域研究』創刊準備号: 1.
 1993.03. 「共同体の原像と社会契約——ヒトとサルの間」(座談)伊谷純一郎・河上倫逸・横山俊夫, 比較法史学会(編)『歴史と社会のなかの法』pp. 118-159. 未來社.
 1993.04. 「自然が観察者にはほほ笑みかけてくれた瞬間」『アニメ』247: 10-11.〔著書15収録〕
 1993.04. 「ジェーン・グドール博士の講演『野生チンパンジー集団間の文化的多様性と保護についての諸問題』後記」

神戸学院大学人文学会『人間文化』3: 30-32.

1993.05. 「遊牧民トゥルカナの鳥類文化複合」『学術月報』46(5): 408-413.

1993.06. 「解題」梅澤忠夫(編集委員代表)『増補版今西錦司全集・11』pp. 510-523, 講談社.

1993.06. 「サル・類人猿——霊長類学の基骨」『FRONT』June 1993: 24-25.

1993.08. 「幸島のその後」『こうしま』6: 20-21.

1993.10. 「南西部アフリカ八〇〇キロ」『日本経済新聞』1993年10月24日.

1993.10. 「タンガニカ湖畔」『霊長類研究』9: 215-224.

1993.11. 【著書15】『自然がほほ笑むとき』230p, 平凡社.

1994. 「今西錦司——ウマとゴリラとカゲロウと」財団法人日本動物愛護協会『動物たち』84: 12-16.

1994. 「日本の風土が生み出した新しい世界」『講座・地球に生きる 全5巻』(推薦書), 雄山閣出版.

1994.02. 「霊長類社会の新世界」『生物科学』46(1): 3-6.

1994.03. 「霊長類社会の進化——優劣から平等の世界へ」社団法人守口市医師会『守口市医師会会報』6: 1-19. (守口市医師会秋季講演会1993年11月20日, 大阪グランドホテル)【講演録】

1994.03. 「野帳」『京大広報』463: 744.

1994.04. 「屋久島の自然と人——古い野帳より」屋久島産業文化研究所『季刊生命の島』30: 25-29.

1994.04. 「自然の慈悲」『金曜会』1994年4月23日, 東京, 日立金属高輪運輸会館。【講演録】

1994.05. 「屋久島の道路拡張は再考を」『朝日新聞』論壇』1994年5月13日.

1994.05. 「訳者後記」J. グドール(著), 高崎和美・高崎浩幸・伊谷純一郎(共訳)『心の窓——チンパンジーとの30年』pp. 391-419, どうぶつ社.

1994.05. 「研究科長就任にあたって」『神戸学院大学・学内報』291: 13.

1994.07. 「山原の明と暗」アニメ——動物写真の世界』pp. 42-47, 平凡社.

1994.07. 「リーダーとフォロワー」『増補版 今西錦司全集・別巻(月報)』講談社.

1994.11. 「経験の集積」(対談)伊谷純一郎・河合準雄, 『河合準雄対話集——科学の新しい方法論を探る』pp. 213-249, 三田出版会.

1995.01. 「流通ケイザイ創刊25周年記念対論——人間学コネクション」(対談)伊谷純一郎・川勝平太, 『流通ケイザイ』第571号(1995年1月5日).

1995.07. 「まえがき」大塚柳太郎・市川光雄・秋道智彌(共編)『生態人類学を学ぶ人のために』pp. i-v, 世界思想社.

1995.08. 「競争よりも共存の理論——戦後の日本社会(戦後50年エビローク)』『朝日新聞』1995年8月15日.

1995.09. 「ヒト・サル・アフリカ——霊長類学・走り続けた「私の戦後50年」』『朝日新聞』1995年9月1日.

1995.09. 「平等と不平等のはざま——猿人たちの一日」『国際協力』485: 1.

1995.09. 「人間の家族はチンパンジーと同じ父系集団から生まれたと考える」『マンスリー・レポート』166: 2-5. [インタビュー]

1995.12. 「ケニア遊牧民の潜在的農耕——トゥルカナの事例」渡部忠世(監修), 農耕文化研究振興会(編)『アフリカと熱帯圏の農耕文化——農耕の世界, その技術と文化(2)』pp. 19-40, 大明堂。【1992「ケニア遊牧民の潜在的農耕——トゥルカナの事例」の再録】

1995.12. 「国境」『JANES ニュースレター』5: 1.

1995.12. 「混群——似て非なるものへのそこはかたない関心」『遺伝』49(12): 2-3.

1996. 「サルと人間の社会学」『中山科学振興財団活動報告書・1996』pp. 23-27, 中山科学振興財団.

1996.02. 「学問の裏舞台——今西錦司先生とのある旅」『学術月報』49(2): 244-245.

1996.03. 「今西錦司先生との山行」『支部だより』42(別刷): 1-12. 【日本山岳会創立90周年記念集会「岐阜・京都ブロック」記念講演1995年7月8日, 講演録】

1996.03. 「歴史と自然の旅人——江戸とアフリカ」(座談)伊谷純一郎・塚本学・篠原徹, 日本エディタースクール出版部『列島の文化史』10: 1-26.

1996.06. 【著書16】『江戸とアフリカの対話』(共著)伊谷純一郎・塚本学・篠原徹, 166p, 日本エディタースクール出版部.

1996.09. 【著書17】『森林彷徨(熱帯林の世界・1)』235p, 東京大学出版会.

1996.09. 「森は動く」東京大学出版会『UP』287(9): 6-11.

1997.02. 「「熱帯林」への誘い——シリーズ「熱帯林の世界」によせて」(座談)伊谷純一郎・大塚柳太郎・加納隆至, 東京大学出版会『UP』292(2): 1-15.

1997.03. 「原子令三君を偲ぶ」『日本アフリカ学会会報』28: 1-3.

1997.03. 「コロンビア・マカレナティニグワ国立公園」木原記念横浜生命科学振興財団『Kihara Memorial Foundation NEWSLETTER』14: 4-7.

1997.05. 「私が出会った本一志賀直哉著「暗夜行路」」『神縄タイムス』1997年5月2日.

1997.09. 「競争と共生」『霊長類研究』13(2): 183-186.

1997.09. 「サル・ヒト・社会」(対談)伊谷純一郎・安岡章太郎, 『安岡章太郎15の対話』pp. 31-44, 新潮社。【「神戸新聞」

『北海道新聞』などに1992年1月に掲載】

1997.12. 「熱帯林壊滅の構図」川田順造・岩井克人・鶴武彦・恒川恵市・原洋之介・山内昌之(編集委員)『岩波講座——開発と文化・3(月報)』pp. 1-4, 岩波書店.

1998.05. 「アフリカの味」『季刊ヴェスタ vesta』31: 2-3.

1998.10. 「無伴奏チェロ組曲に響かせて」原子令三(著)『森と砂漠と海の人びと』pp. ii-iii, UTP制作センター.

1999.01. 「魚の名」渡沢青淵記念財団竜門社『青淵』598: 6-8.

1999.08. 「新訂増補 アフリカを知る辞典」

2000.05. 「霊長類学の50年を回顧する——人間とは何か: 霊長類のフィールド研究からのアプローチ」(座談)伊谷純一郎・田中二郎・加納隆至・松沢哲郎・山極寿一, 『エコソフィア』15: 47-60.

2000.08. 「「心」社会」『進化』——サルの研究で人類史を復原する』『公研』38(8): 42-57. [インタビュー]

2000.08. 「蘭嶼の鳥」渡沢青淵記念財団竜門社『青淵』617: 2-3.

2000.11. 「日本の霊長類学の半世紀」松沢哲郎・長谷川寿一(共編)『心の進化——人間性の起源をもとめて』pp. 132, 岩波書店.

2000.12. 「燕村の動物句」朝日新聞社編『鳥獣虫魚 歳時記 春夏秋冬』pp. 295-297, 朝日新聞社.

2001.01. 「人類発祥の地を問う」神戸学院大学人文学会『人間文化』15: 1-14. 【講演録】

2001.01. 「アフリカの植生園——試案の提示」(共著)伊谷純一郎・寺嶋秀明, 神戸学院大学人文学会『人間文化』15: 15-18.

2001.08. 「アフリカ地域研究・霊長類学・人類学における学際」『学際』2: 37-45.

2001.10. 「刊行のこぼれ」『講座・生態人類学』pp. iii, 京都大学学術出版会.

2002.03. 「アフリカの植生を考える」『アフリカ研究』60: 1-33.

2002.11. 「序文」西田利貞・上原重男・川中健二(共編)『マハレのチンパンジー——〈パンソロロジー〉の37年』pp. v-xv, 京都大学学術出版会.

2003.07. 【著書18】『類人猿にみる人間』(共著)伊谷純一郎・尾本恵市・養老孟司, 229p, 中山書店。【講演録】

2007.07. 【著書19】『原野と森の思考——フィールド人類学への誘い』430p, 岩波書店.

2. 翻訳書

池田次郎・伊谷純一郎(共訳)『人類の起源』今西錦司(責任編集)『ダーウィン(世界の名著39)』pp. 63-560, 中央公論社.

1971.06. 伊谷純一郎・西田利貞・秋鹿祐輔(共訳)『動物とヒトの行動(1)』アンソニー・バーネット著, xiv+219p, みすず書房.

1971.09. 伊谷純一郎・西田利貞・秋鹿祐輔(共訳)『動物とヒトの行動(2)』アンソニー・バーネット著, iv+188p, みすず書房.

1978.09. 伊谷純一郎・美濃口坦(共訳)『比較行動学(1)』アイブル・アイベスフェルト著, xix+366p, みすず書房.

1979.10. 伊谷純一郎・美濃口坦(共訳)『比較行動学(2)』アイブル・アイベスフェルト著, iii+375p, みすず書房.

1994.05. 高崎和美・高崎浩幸・伊谷純一郎(共訳)『心の窓——チンパンジーとの30年』ジェーン・グドール著, 429p, どうぶつ社.

3. 外国語の著書・論文等

1959. "Paternal care in the wild Japanese monkey, *Macaca fuscata fuscata*." *Primates* 2(1): 61-93.

1961. "The society of Japanese monkeys." *Japan Quarterly*, 8(4): 421-430.

1963. "Paternal care in the wild Japanese monkey, *Macaca fuscata*." In C. H. Southwick (ed), *Primate Social Behavior*, pp. 91-97, D. Van Nostrand, Princeton.

1963. "Vocal communication of the wild Japanese monkey." *Primates*, 4(2): 11-66.

1963. "The social construction of natural troops of Japanese monkeys in Takasakyama." Itani, J., K. Tokuda, Y. Furuya, K. Kano and Y. Shin, *Primates*, 4(3): 1-42.

1965. "On the acquisition and propagation of a new food habit in the troop of Japanese monkeys at Takasakyama." In K. Imanishi and S. A. Altmann (eds), *Japanese Monkeys: A Collection of Translation* pp. 52-65, The University of Alberta, Edmonton.

1965. "Social organization of Japanese monkeys." *Animals*, 5(15): 410-417.

1966. "Die Soziale Ordnung bei den Japanischen Affen." *Das Tier*, 6: 8-12.

1966. "Chimpanzees in Kasakati basin, Tanganyika (I): Ecological study in the rainy season 1963-1964." Itani, J. and K. Izawa, *Kyoto University African Studies*, 1: 73-156.

1967. "The social unit of chimpanzees." Itani, J. and A. Suzuki, *Primates*, 8: 355-381.

1968. "The social organization of chimpanzees." (Unpublished paper presented at the Symposium No. 42 of

- Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Vienna, August 19-28)
1972. "A preliminary essay on the relationship between social organization and incest avoidance in nonhuman primates." In F. E. Poirier (ed), Primate Socialization, pp. 165-171. Random House, New York.
1973. "The study of infrahuman culture in Japan, a review." Itani, J. and A. Nishimura, In E. W. Menzel, Jr. (ed), Symposia of the Fourth International Congress of Primatology, vol.1. Precultural Primate Behavior, pp. 26-50, S. Karger, Basel.
1974. "Distribution and adaptation of chimpanzees in an arid area (Ugalla area, western Tanzania)." (A paper prepared in advance for Symposium No. 62, The Behavior of Great Apes, in Burg Wartenstein, July 20-28, by Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research)
1975. "Twenty years with Mount Takasaki monkeys." In G. Bermant and D. G. Lindburg (eds), Primate Utilization and Conservation, pp. 101-125, John Wiley & Sons, New York.
1977. "Evolution of primate social structure." Journal of Human Evolution, 6 : 235-243.
1979. "Distribution and adaptation of chimpanzees in an arid area." In D. A. Hamburg and E. R. McCown (eds), The Great Apes, pp. 55-71, The Benjamin/Cummings, California.
1980. "The Turkana's view of nature." In J. Tanaka (ed), A Study of Ecological Anthropology on Pastoral and Agrico-pastoral Peoples in Northern Kenya, pp. 26-54, Kyoto University Primate Research Institute, Inuyama.
1980. "Social structures of African great apes." In R. V. Short and B. J. Weir (eds), The Great Apes of Africa, Journal of Reproduction and Fertility, Supplement 28 : 33-41.
1980. "Macaco del Giappone, Macaca fuscata." In Grande Enciclopedia illustrata Degli Animali Mammiferi, vol. 5, pp. 75-80, Arnoldo Mondadori Editore, Milano.
1980. Mahale : Study for the Proposed Mahale Mountains National Park. Itani, J. and T. Nishida, Japan International Cooperation Agency, Tokyo.
1981. "A newly-discovered population of Colobus angolensis in East Africa." Itani, J., T. Nishida, M. Hiraiwa and T. Hasegawa, Primates, 22 (4) : 557-563.
1982. "La structure sociale delle scimmie antropomorfe africane." Scienza & Tecnica, 83 : 220-225.
1982. "La vie sociale des grands singes." La Recherche, 13 (134) : 744-751.
1982. "Intraspecific killing among non-human primates." J. Social Biol. Struct., 5 : 361-368.
1983. "Sociological studies of Japanese monkeys." Recent Progress of Natural Sciences in Japan, 8 : 89-94.
1983. "Die Totung von Artgenossen bei Nichtmenschlichen Primaten." In M. Gruter and M. Rehbinder (eds), Der Beitrag der Biologie zu Fragen von Recht und Ethik, pp. 143-157, Duncker & Humblot, Berlin.
1984. "Inequality versus equality for coexistence in primate societies." In International Conference on the Unity of the Sciences (ed), Absolute Values and the New Cultural Revolution, pp. 161-189, I.C.U.S. Books, Chicago.
1985. "The evolution of primate social structures." Man (N.S.) 20 (4) : 593-611.
1987. "Inequality versus equality for coexistence in primate societies." In D. McGuinness (ed), Dominance, Aggression and War, pp. 75-104, Paragon House, New York.
1988. "The origin of human equality." In M. R. A. Chance (ed), Social Fabrics of the Mind, pp. 137-156, Lawrence Erlbaum Associates, Hove.
1990. "Safari surveys of the vegetation and the chimpanzee groups in the northern half of the Mahale mountains." In T. Nishida (ed), The Chimpanzees of the Mahale Mountains : Sexual and Life History Strategies, pp. 37-61, University of Tokyo Press, Tokyo.
1994. Hominid Culture in Primate Perspective. D. Quiatt and J. Itani (eds), xvii+391 p, University Press of Colorado, Colorado.
1994. "Preface : Culture, nature, and the nature of culture." Quiatt, D. and J. Itani, In D. Quiatt and J. Itani (eds), Hominid Culture in Primate Perspective, pp. xiii-xvii, University Press of Colorado, Colorado.

著書, 編著書, 監修書リスト

- 1954.12. 【著書1】『高崎山のサル(日本動物記・2)』今西錦司(編), 284p, 光文社.
- 1958.07. 【著書2】『幸島のサル——その性行動(日本動物記・3)』(共著)伊谷純一郎・徳田喜三郎, 今西錦司(編), 242p, 光文社.
- 1961.08. 【著書3】『ゴリラとビグミーの森』322p, 岩波書店.
- 1964.08. 【著書4】『アフリカ動物記』286p, 河出書房新社.
- 1970.07. 【著書5】『チンパンジーを追って』238p, 筑摩書房.
- 1972.10. 【著書6】『霊長類の社会構造(生態学講座・20)』161p(+索引13p), 共立出版.

- 1973.12. 【著書7】『タンガニイカ湖畔——自然と人』(共著)伊谷純一郎・西田利貞・掛谷誠, 191p, 筑摩書房.
- 1977.07. 【著書8】『チンパンジーの原野——野生の論理を求めて』267p, 平凡社.
- 1980.11. 【著書9】『トゥルカナの自然誌——阿賀なき人びと』284p, 雄山閣出版.
- 1982.11. 【著書10】『大旱魃——トゥルカナ日記』235p, 新潮社.
- 1984.10. 【著書11】『アフリカ紀行——ミオンボ林の彼方』276p, 講談社.
- 1987.06. 【著書12】『霊長類社会の進化』354p, 平凡社.
- 1990.03. 【著書13】『自然の慈悲』286p, 平凡社.
- 1991.09. 【著書14】『サル・ヒト・アフリカ——私の履歴書』213p, 日本経済新聞社.
- 1993.11. 【著書15】『自然がほほ笑むとき』230p, 平凡社.
- 1996.06. 【著書16】『江戸とアフリカの対話』(共著)伊谷純一郎・塚本学・篠原徹, 166p, 日本エディタースクール出版部.
- 1996.09. 【著書17】『森林彷徨(熱帯林の世界・1)』235p, 東京大学出版会.
- 2003.07. 【著書18】『類人猿にみる人間』(共著)伊谷純一郎・尾本恵市・養老孟司, 229p, 中山書店.
- 2007.07. 【著書19】『原野と森の思考——フィールド人類学への誘い』430p, 岩波書店.
- 1964.08. 【編著書1】『高崎山の野生ニホンザル——餌とげけ10年目の総合調査報告』(共編)伊谷純一郎・池田次郎・田中利男, 210p, 勁草書房.
- 1965.03. 【編著書2】『サル——社会学的研究(今西錦司博士還暦記念論文集)』(共編)川村俊蔵・伊谷純一郎, xi+455p, 中央公論社.
- 1977.03. 【編著書3】『チンパンジー記』744p, 講談社.
- 1977.04. 【編著書4】『霊長類(人類学講座・2)』伊谷純一郎(責任編集), 人類学講座編纂委員会(編), 316p, 雄山閣出版.
- 1977.11. 【編著書5】『人類の自然誌』(共編)伊谷純一郎・原子令三, iv+634p, 雄山閣出版.
- 1983.08. 【編著書6】『アフリカハンドブック』(共編)米山俊直・伊谷純一郎, vi+672p, 講談社.
- 1984.03. 【編著書7】『アフリカ文化の研究』(共編)伊谷純一郎・米山俊直, ix+786p, アカデミア出版会.
- 1986.03. 【編著書8】『自然社会の人類学——アフリカに生きる』(共編)伊谷純一郎・田中二郎, 393p, アカデミア出版会.
- 1996.09. 【編著書9】『熱帯林の世界』(共編)伊谷純一郎・大塚柳太郎, 235p, 東京大学出版会.
- 1986.04. 【監修書1】『動物大百科3——霊長類』(日本語版監修)168p, 平凡社.
- 1989.02. 【監修書2】『アフリカを知る事典』(監修)伊谷純一郎・小田英夫・川田順造・田中二郎・米山俊直, 527p, 平凡社.